

発行：NPO法人「地域人権みんなの会」

2011年12月20日

岡山市北区下伊福西町1-53 Tel&FAX 086-254-9555 <http://minnanoie.org/> 発行責任者 中島純男

唐鎌直義さんが講演

財源はちゃんとあります！ 社会保障の役割は貧困の除去！！ 労働者としての覚悟を

岡山市で開催 **人権を考える学習集会** 73名が参加

NPO・地域人権みんなの会では12月3日、医療、介護の充実、新しい社会保障の地平線を切り開く「2011年度人権を考える学習集会」を勤労者福祉センター（岡山市）で開き、市民や介護事業所の関係者など73人が参加しました。

この学習集会は、東日本大震災以降、国が打ち出す年金、介護など社会保障のいつそうの後退と消費税などの増税、「自己責任論」の強化のなか、今こそ社会保障の充実が必要と、社会保障研究家の唐鎌直義（元専修大学教授）さんを迎えて講演会を開いたものです。

講師の唐鎌さんは、先進各国のデータを示しながら、日本はスウェーデンやドイツと比べても国民一人当たりの社会保障給付額が少ない。復興支援を口実の消費税増税も、低所得者ほど負担の多い「逆進性」に問題があるとしました。財源問題についても、最近の8年間の収支状況からも黒字で推移しており、国民は政府からだまされている。国民は組合などに団結して、自分たちの暮らしをよくするための運動が、日本社会をよくすることにつながる、社会保障の役割は、先ず貧困の除去だと訴えました。

以下、参加者から寄せられたアンケートの内容です。

- ・公的年金は必要生活費で上下の幅を小さくという考えは本当に、そうだ、と思いました。社会保障の視点を弱者の立場で、という視点の大切さ、改めて痛感です。
- ・今日のあまりにもひどい税制政策をよく理解できました。マスコミにだまされつづけるのが心配です。
- ・財界、大企業の富の独占に改めて怒りを覚えました。
- ・社会保障費のゆきづまりはないことの確信を得ました。東日本復興支援、第1は住宅と言われはっと思った。「生きていてよかった」「労働者としての幸せを」「労働者文化は集団」といわれたことが心に染みしました。
- ・社会保障の充実を求めると「日本にはお金がない」と言われるのが一般的。それは違う



と、最初に説明してくれて良かった。仕事は「お金をもらう」だけでなく、生き甲斐であり自分が社会的存在である喜びが得られるものです。とても良い機会を与えてくれてありがとうございました。

・消費税が社会保障にいつさい役立っていないこと、賃上げが経済の健全な発展のためにたいせつであること、これらがよくわかりました。

その他、注文としては、聞き取りにくかったということに関してのマイクなどの音響のこと、関連して席の作り方に課題があるという指摘、せっかくの良い話なのでもっと参加者を増やすべきだ、という意見、会場にかかわって駐車場が狭い、という意見などがありました。

NPOみんなの会メンバー4人が岩手県宮古市へ

11月2日から5日までの岩手県宮古市への震災復旧支援行動の記録です。参加した4人、藤澤末博、竹本桂子、三戸康生のみなさん、当方も含めてすべてNPO 地域人権みんなの会の構成メンバーでした。

2日の朝、NPO みんなの会の理事、三戸さんが息子さんから借りてきたワンボックスカーに、民主会館の事務所メンバーが米や野菜、衣料、暖房具等を詰め込んでくれています。この朝、津山から電車で岡山に来てくれた藤澤さんもふくめ、シルバーカルテットがいよいよ出発です。民主会館のいろいろな事務所に勤務する大勢の方々がカンパもしてくれて、また見送りににも。

岡山から岩手県宮古市までは1300キロメートル余り。一日目は、新潟市の駅前のホテルまで、約800キロメートルを超えます。岡山インターから米原インターで北陸道に入ります。2日目は、朝8時に出発。北陸道から磐越道、そして郡山から東北自動車道をひた走



11月2日、民主会館で出発式となりました

盛岡南インターで高速を降ります。そこから地道を100キロメートル、国道106号線で山をいくつも越えて太平洋側に向かうのです。夕方4時過ぎに、めざす場所付近に到着です。電話して迎えに来てもらいます。

宮古市に10月中旬からボランティアに来ている岡山の知り合いの青年、T田さんを待たせてもらいます。その間、田中さんという市議員の方に、3・11の様相を聞かせてもらいました。そして、岡山から運んだ、衣料品や暖房器具はボランティアセンターへ。石田正也弁護士から預かった貯金箱も含めた募金やお米、野菜は田中さんたちの事務所に降ろさせていただきました。



3日、宮古市の田中議員に募金などを手渡しました

宮古市の人口は5万7千人余り、死者525人、負傷者33人、行方不明者118人（認定死亡者107人を含む）、家屋倒壊4675戸（全壊、半壊）。その中でも、今回視察出来た二つの地区、鉾ヶ崎地区は全壊646、田老地区1609、と被害も大きい。

以下、田中市議会議員さんの説明。宮古市に88カ所の避難所か

できた。ホテルや休暇村も避難所として提供してくれた。自衛隊は北海道から復旧支援に、警察の支援は主に治安が役割。残念なことではあるが火事場泥棒的な犯罪の対応も含めて、という実態であった。3・11は市役所で議会が開かれていた。海に囲まれ2階まで浸水状態になったが、幸い市職員に身体的被害はなかった。当初、気象庁が、第2波を3メートルと発表した、直ちに訂正したが、最初の発表が住民にそこまでのもの、という感じを与えたことは否めない。昭和8年の津波対策で10メートル対応の防波堤がつくられている、という安心感があったのだろう。

復旧に向けて、住宅再建資金、国からの保障として500万円にして下上乘せをして合わせて700万円にしたい。昆布とワカメの養殖事業への国からの援助を期待している、7月の宮古市合同慰霊祭に当時の松本復興大臣がきて、市長は弟分でもあるし力を貸してくれると言っていた、そういう地元からの要望を出していくことが大切だという思いが、「知恵を出せ、ださないやつには・・・」という発言なったのかとも思っている、と。問題発言も別の角度で見て深めながらも、根本の問題を捉える事が必要かと思ったのです。



宮古市の仮設住宅、市内に2000戸余りあります

仮設住宅、岩手県全体では2万戸。そのうち2,000戸を地元業者に任せている。宮古市の仮設住宅は2,010戸建設していて、1,776戸に入居している。仮設住宅にも格差があり、2重窓、断熱材、などさらに追加工事が必要なものもある一方、大手の業者が立派なものをつくっている、という状態。大手業者は、仮設入居者に住宅建設を持ちかけている。資金繰りの準備、土地の情報の提供と合わせて、



高台から見降ろした宮古市・田老地区 11月4日

仮設家屋の立派さを売り込み材料としている、と。大企業のそのしたたかさに驚きます。街づくり、再建について。まず、これ以上津波で命を落とさないよう高台に住み家をつくろうと呼びかけている、しかし漁業関係者や高齢者の方は、前の住み家のように住居を構えたいという思いが強い、若い人はこれからの代々の家になるのだから被害にあわない高台に、という気持ちが強まっている、と。宮古市の経済力指数は0.4。三陸鉄道の復旧工事は、穀田衆院議員などの奮闘ですべて国が負担することになった。仕事、働く場の確保では何と言っても養殖施設の復旧から。製氷工場が建設されると魚類の水揚げの場となる。仕事興しのため、冷凍工場、ホテル、流通などグループ化して事業化すると対応できる補助金制度をつくった。10億円の予算、宮古方式で、100万円以上の小規模からでも対応している、と。

4日は、朝早くから、鉾ヶ崎漁港と田老地区へ。鉾ヶ崎は新たな魚市場が稼働していました。周辺の建物は基礎だけ残して見る影もない、という状態。その後、魚菜市场に。少しでも地元で現金が落ちるように、当方は宮古産のリンゴ、イカの一晩干しを。



4日の朝、田老港付近、高さ10mの堤防の内の様子。取り残されたホテル。



3日、一泊させてもらったボランティアセンター

その後、田老地区に向かいます。車で約25分。地元の市会議員さん、崎尾さんが案内役をかってくれました。崎尾さん宅は、自動車整備工場。田代川に面していて、津波があつた日に営業用の車を避難させたかったけれど間に合わなかった、約2メートルのところまで水が押し寄せた、あの橋梁を黒い波が乗り越えてきた、と。



津波遡上高、38mを越えた小堀内漁港。警戒にあたっていた消防職員が波に引き込まれてなくなった。



田代川。津波はこの橋を越えて逆流してきたという。

そこから、小堀内漁港まで向かいます。

釣りの穴場のような感じの港です。車を停めた場所は高さ海面から30メートルはあるようでした。その上にまで波が押し寄せて、見回りに来ていた消防職員の方が波にのまれてしまい亡くなった、という場所です。津波遡上高、38メートルを超える地点だといえます。

その港のすぐ近所に、グリーンピアの敷地内に、400戸の仮設住宅があります。お店も、歯科医院も出ています。グリーンピアの宿泊施設も営業しているといえます。これからの冬期の暮らしが心配のようです。

そこから、田老地区に戻ります。防波堤は昭和9年に建設されました。高さ10メートル。台形の上の幅が4メートル、下の幅が10メートルほどありそうな頑丈な構造です。この防波堤の内にある建物がすべて乗り越えて防波堤の外に瓦礫となって残った、といえます。外の建物も学校がある手前までほぼ全壊という感じですが、がれきも撤去され、はるかに見える野球場の付近に集められているがれきの一部が見えました。

堤防の内に残っているホテル、その上からホテルの社長さんが写したビデオが当時の実態を生々しく残しているようです。農水省がつくった防潮堤では津波には役に立たず全壊という無残な姿になっていました。



昭和9年に建設された高さ10メートルの防波堤の外の田老地区



農林省事業の防潮堤。津波には持ちこたえられなかった

5日は、津山で藤澤さんを降ろし、竹本さんの自宅まで送って、午後7時半に民主会館に無事つきました。みなさん、思い切って宮古へ行って良かったという感想です。被害の実相をみること、そこで必死で復旧のために頑張っている人々と交流できたこと、みんなの気持ちが集まった持参した支援物資が大変喜ばれたこと、ボランティアで1か月も頑張る青年がたくましく思えたこと、何人ものボランティアの人々がうまくねっとワークされていること、などを実感したからです。来年、春にもう一度いけたら、と思っています。往復2800キロメートルの運転も、分担すればそれなりに楽しくなることも発見、今回の新たな成果でした。【記・中島純男】

2011年度「あなたと私の人権学習集会」へのご案内

日時 2012年1月28日(土)午後1時30分～4時
(受付は午後1時より)

会場 くらしき山陽ハイツ 第1ホール
倉敷市有城 1265 TEL086-429-1113

講師 今岡清廣(いまおか・きよひろ)さん
社会福祉士、精神保健福祉士

参加費 無料

今回の学習集会は、人間としての尊厳を貫くために「成年後見制度の現状と課題」をともに学習する企画とさせていただきます。NPO 地域人権みんなの会が運営する、小規模多機能型居宅介護事業所の「みんなの家ななくさ」「みんなの家かるがも」の利用者さんの間でも、この制度を利用する方が出現しています。

これからは益々急増することも予想されます。欧米に比べても大幅に遅れた日本の現況を見据え、これからの権利擁護システムの方向を共に考えて行きたいと思えます。

ぜひ、会員のみなさんの積極的なご参加、よろしくお願いいたします。 ぼうを同封しています。ご活用ください。